

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20年 11月 11日
事業所名	グループホーム まこと
ユニット名	
事業所番号	2372202065
記入者名	職名 ホーム長 氏名 垣添 幸子
連絡先電話番号	0586-25-0380

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>どのように支援していけば、家庭的な雰囲気を感じていただけるのか、また、安全・安心していただく為にはどうあるべきかを職員全員が常に意識していけるように確認しながら取組んでいく。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる</p>	<p>理念は 玄関に掲示しているが、職員全体に浸透しているかは疑問である。</p>	<p>職員全員に配布し、ケア会議で唱和したり、日々の取り組みの中に理念が基礎にあるか確認していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取組んでいる</p>	<p>玄関に掲示して来訪者のどなたでも見て頂ける様にしている。ご家族には入居手続きの際、説明している。地域の人々への浸透は説明の機会がとれていない。</p>	<p>ホームの行事に参加していただいたり、社内研修の一環で企画検討をして周知していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>入居者と一緒に回覧板を持っていったり、本年は納涼祭を開催し隣近所に呼びかけて参加していただけました。お隣の方からは時々庭で育てているお花を頂いたりしている。</p>	<p>当地に転居後2年弱なのでまだ充分とはいえないが、今後も積極的に取組んでいきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>職員と入居者とペアになり、月に一度のお宮掃除に参加している。また、ホームに現住所を移されている方もおられ、地域の「敬老会」に招待を受け参加した。町民祭りにも参加させていただいた。</p>	<p>今後も積極的に参加し、交流出来る様にしていきたい。また、老人クラブとの関わりをもてるようにしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で地域の災害時には、ホームを避難所として開放、活用してもらうように話している。		具体的な取り組みはなく、食料や水、備蓄品も完全ではない。地域の高齢者の把握もまだ出ていないので今後の課題としていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、・管理者は理解している。職員もある程度理解はしていると思うが、初めての取り組みの職員も多く、戸惑っていた。		グループホームの運営に当たって外部評価の義務、位置づけを理解してもらい、自己評価を活かして具体的な改善が出来る様にしたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を通して色々な立場の参加者から意見や情報を受けてサービスの向上に努めている。		今年から 地域包括支援センターの参加があり、多くの情報、相談が出来る様になった。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者・介護支援専門員により、主に市高年福祉課に 入居に関する事、介護保険に関する事の相談をしている。		今後も同様に相談をし、助言を受けながらサービスの向上に努めていきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、活用する入居者はいない。		今後、社外研修に参加して知識を深め、必要に応じて活用出来る様にする。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束について、曖昧な点もあるため、機械を見て社外研修に参加したり、公表されている情報をキャッチして周知するように努めている。		色々な資料をもとに社内研修として勉強会を開き法律的にも 正しい知識を得る必要がある。ホーム内で疑わしき場合は、早急に状況を確認の上、対処・検討をして回避に努める。自宅に於ける虐待等については外出・外泊後の観察をして早期発見に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前には見字に来ていただき、ホームの概要を説明、入居希望相談表に記入して頂く。その後ホームの受け入れが可能になった状態から、入居申し込みをして頂き入居予定者の入居前アセスメントも行う。お試し期間を設け実際に宿泊して頂き、疑問・質問に答え、理解・納得して頂ける様にする。</p>	<p>契約・解約に至るまでのマニュアルを活用している（主に管理者・介護支援専門員に於いて）</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中での意見、不満、苦情などの申し出や表情などから察知して職員全体の申し送りをし、利用者が満足できる方向を検討する。</p>	<p>個々の介護記録・介護業務日誌への記録からの読み取りをする。また、利用者、ご家族の意見はケア会議で検討議題として話し合う。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>御家族面会時、お支払い時に利用者の近況報告や会議での決定事項等伝えている。必要に応じて、 ・ファックスの活用もしている。</p>	<p>伝え忘れがないように職員間の連絡・申し送りを徹底し、ご家族に対しては面接用紙を現在使用していないため、必要事項を記入して双方で把握出来る様にしていく。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時に苦情に関する連絡窓口をお伝えして、面接を通じて意見等を頂いている。</p>	<p>実施にご家族から不満、疑問など言いにくい事もあると思うので 職員からの離しかけから伺って運営に反映させる。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議で出された意見や提案に関しては管理者から施設長、他上司役員に報告し、検討している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事やレクリエーション時には可能な限りで職員の配置変更・調整を行い、理解・協力を得、ご家族に周知している。</p>	<p>普段の勤務に支障が無い様に配慮も必要な為、地域のボランティア等、社会資源の有効活用も検討する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入・離職がある場合には、ご家族には面会時等に報告する。利用者にはダメージを考慮して質問があれば理解できる範囲での説明にとどめている。		職員の顔と名前が分かる様にリビングに写真を掲示している。
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については職員に回覧として告知して希望を募ったり、施設として必要だと感じた職員に声掛け、参加意志の確認をする。参加する事を事業所が認めた場合【研修】として勤務の一環として扱う。後日、研修報告書を提出する義務がある。		自己学習にとどまらない様に研修で得た知識、技術は伝達講習としてケア会議での報告、社内研修に振り替えるようにしていく。また、必要に応じて、他、事業所の了承を得て研修・実習を依頼し、職員のスキルアップに繋げていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣ホームに訪問・見学させてもらい情報交換・連携を強める。地域包括支援センターのケア会議・運営者連絡会に参加している。		近隣ホームとの交流を絶やさないように連絡を取り合ったり、他の地域のホームや福祉施設とも連絡を取り、サービスの向上と、社会資源の有効活用を図る必要がある。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は職員の個々の問題を把握し、相談に乗れるような雰囲気作りが必要とされる。プライバシーを厳守のもと、定期的な個人面談をしていきたい。		休憩時間は確保しているが、現場を離れて、休憩する事が殆どされていないため、配慮してきたい。また、管理者・施設長に話しやすい環境にありたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	実績・資格による給与体系が確立されている。また、日頃の勤務状況の把握と職員との面談によって個々の努力を確認して。更に管理者以上の運営者が認めた場合は、責任ある立場で働いて貰える様、推薦者と押し付けにならないよう充分話し合い就任してもらっている。		職員が意欲を持って働き続けれる環境整備とともに職員個々が「今の自分の振り返り」の為に自己評価の実施、研修参加が必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に利用者も含めた面接を行い入居の医師を本人から確認をとるようにして入居が、ご家族の意向と違う事もある為、焦らずゆっくりと信頼関係を築くようにしている。</p>	<p>可能な限りお試し入居をしていただき、本人の希望・不安を伺いケアプランに反映させる。入居1ヵ月後に見直しをして本人の同行を受け止め信頼関係の糸口を作っていく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に利用者も含めた面接を行い、入居の意志を本に確認を取るようになっているが、ご家族の意向と異なる場合も有り。焦らずゆっくりと信頼関係を築くようにしている。</p>	<p>入居1ヵ月後のケアプランの見直しの際、改めてご家族の意向を伺い、ケアプランに反映させていきたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ホームへの入居を希望されている場合が殆どだが、サービスの内容を説明し、もし希望にそぐわない時には、分かる範囲で誠意を持って他のサービスの説明をする。</p>	<p>事前相談やお試し入居をしながら受け入れ可能か検討をする。もし受け入れが難しいと判断した場合は、誠意を持って事情を説明し、他のサービスの情報を提供する。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前にホームの概要を説明・お試し入居を通してサービス内容を理解して頂く様に努めている。職員・他、利用者とも徐々に馴染んで頂ける様、本人・ご家族と意思疎通を図る。</p>	<p>ご家族の希望によりいきなりサービス開始となる事も往々として考えられるが、利用者本人に合ったペースでホームの生活に馴染んで頂ける様配慮し、見守り・声掛けしていく。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常の家事を利用者と職員の共同作業で行うことが本来のホームのあり方と思うが、時間短縮・効率優先、職員中心になってしまう事もある。週末の献立作成、掃除、買い物、調理など利用者といっしょに出来る事は多いので余裕を持って共同作業を進めていきたい。</p>	<p>利用者との共同作業・娯楽を楽しむ方向には向いていると思うが、常に意識を持って取組んでいけるように職員間の意識化、話し合いの中で確認していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは常に連絡を取り合い、つきに1度のお支払い時にはできるだけ来訪をお願いしている。		出来るだけ面会に来て頂き、一緒に外出・外泊もお願いしている。 ケアプランの確認もあわせて行い、ご家族の希望を伺うようにしている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時のアセスメントや面接の中から、利用者のご家族の関係を理解して、出来るだけ良い関係が維持出来る様に支援する。		ホームでの利用者の状況をご家族にお伝えし、理解を深めていただく。面会時はプライバシーを確保するため、なるべく居室へご案内しゆっくり過ごして頂けるよう配慮する。 時には職員も一緒に歓談の中に入る。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のアセスメントで利用者のなじみの人や場所を把握できている時は、回想療法に役立っている。		実際にその場所に出向いたり、人と会うことは中々難しいが、ご家族の協力を得てよい方向で実現出来る様な取り組みを思索していきたい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングが中心になるが、玄関ポーチや駐車場に設置してあるテントなどでも一緒に外気欲を楽しんだり、共同生活者としての意識が持てるような日々の活動を進めていく。		利用者同士支え合い、仲良く出来る様に職員が介入をするときもある。利用者それぞれの気持ちを大切にして共同生活を過ごす事が出来る様に支援していく。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、継続的な関わりを希望される利用者やご家族がいれば随時訪問していただいたり、ホーム行事に参加していただくなど関わりを継続していきたい。		現在のところ具体的な取り組みはないが、今後予測もされると思われるため、職員とケア会議等で検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中から利用者一人一人の思いを聞きとり、モニタリング・サービス担当者会議・ケアプランで利用者本位を基底に反映させていく。</p>	<p>日頃の言動を注意深く観察し、言葉として現れない個人の思いを推察して、希望実現に向けて取組んでいきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の面接・アセスメントでこれまでの生活歴を把握出来る様にして、本人・ご家族にもお話を伺う。</p>	<p>入居前のアセスメントを基に、分からない部分は本人やご家族に再度尋ねたり面会に来られる知人などからも情報を得られるようにしていく。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居後の日々の状態は介護記録などに記載、総合的な把握が出来る様に、本人・御家族・職員と機会あるごとに話が出る様に努めている。</p>	<p>利用者に関係している職員・医療機関・関係機関・ご家族からの情報を大切にして総合的な判断が出来、ケアプランに反映出来る様に取組んでいく。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプランは入居時、1ヵ月後に見直し、その後は3ヶ月毎に見直している。モニタリング・サービス担当者会議（ケア会議）で出た意見を本人とご家族の意向が反映した内容になるように努力している。</p>	<p>介護支援専門員の独りよがりなケアプランにならぬように利用者の関係者と話し合い、本人の意向を取り入れたプラン作成に努めていく。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>病院から退院後は見直し期間内でも現状に即したケアプランになるように見直している。利用者の急激な変化があったときも見直しをしている。</p>	<p>病状の変化などで主治医から新たな対応の指示があった場合、ご家族・全職員に申し伝えられるように、必要に応じて期間内でもケアプランを変更する。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人個人の介護記録・介護業務日誌に記載して次の職員に申し送りをしていくように決められているが、時折連絡不備がある。</p>		<p>管理者・職員間の情報の共有、申し送りの徹底が出来る様な方法を模索中</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームでの支援内容は入居時に説明する。問題が発生した場合は、その都度利用者・ご家族に説明するが出来るだけ意向に沿えるように対応している。</p>		<p>現実としては、出来ない事への説明・理解・納得していただくほうが難しい。誠意を持って対応し、感情的にこじれないように注意する。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>町会長・民生委員が運営推進会議に参加されているので地域の情報を得る事が出来、参加出来るような行事には積極的に参加している。</p>		<p>運営推進会議時、利用者の意向に沿った議題を提起、検討し、社会資源の活用を考えていきたい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>現在、併用はないが、利用者・ご家族の希望があれば情報提供はしていきたい。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターのケア会議に出席して色々な情報を得るようにしている。今後も相談・社会資源の活用を活かしていきたい。</p>		<p>今年から運営推進会議に参加していただき情報提供、助言を得られるようになった。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>今後、ご家族の都合で受診の付き添いを依頼される場合は付き添い職員の確保・料金をどうするか明文化していく必要がある。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>情報提供に関するサマリーなどまだ書式が出来ていない為、早期に作成したい。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>現在の利用者の高齢化・体力の低下に伴い様々な問題が予想されるので、今後の在り方を確認していく必要性 またご家族の意向を充分考慮して検討していかなければならない。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>見取りのケアを当たり前のこととして受け入れていく必要も有り得ると思われるが、ホームとして出来る事・出来ない事を明確にしてご家族の理解を得るようにする。 今後の課題として重要事項と捉えている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	本人のホームでの現状を出来るだけ詳細にご家族 に報告し、本人の住み替えによるダメージとご家 族の対応がスムーズに行われるように支援する。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	利用者の立場に立って物事を考える習慣を身に付 けるよう、職員間で確認・努力する。		職員の意識向上を促す機会（カンファレンス・勉強 会・社内外研修）を設ける。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	利用者の意思決定を重んじる。 そのためにも、 日頃から声掛けに対して自身で決めたり、希望を 出す習慣が身につくように支援する。		外出希望・食事メニュー・レクの参加等毎日の生 活の中でも出来るだけ本人の意思決定を重んじて 支援する。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	ご自身の意志決定によって過ごして頂けるよ うにはしているが、共同生活の場で有り、ホーム側に 併せていただいている部分も多い。		「待つ ゆとり」を心し、余裕を持って利用者 と職員の共同作業をする。「ここにいていいん だ、楽しい」と思えるよう支援していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	お化粧の習慣のある方には継続して頂いている。 理美容については、有資格の職員の好意により希 望者に行っている。		ご家族が付き添われ美容院に行かれる方もいる。 馴染み、その人らしい生活を考えると、いきつけ の店へ行く事も必要かと思われるため、本人の意 思を尊重した上で、ご家族と協議し支援していき たい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、配膳など、興味のある利用者と一緒に頂いているが職員が準備してしまうことのほうが多い。職員の見守りの中で、げぜん・食器洗い・片付け等役割分担しながら行っている。		月～金曜日は食材を利用、週末は自由メニューの為に利用者と考え、買い物も出来るだけいっしょに行うよう働きかけている。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは同じものになりがちだが、数種類から選んで頂く事もある。喫煙は職員仮の下、決められた時間帯にその都度タバコとライターをお渡しし、玄関ポーチで吸っていただく。		喫煙者は1人、持病もある為本数を制限している。お酒を好まれる方は現在はいない。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に合わせたオムツを適切な使用が出来る様に見守り・声掛けをしている。排泄表を活用してその人にあった声掛け、誘導をしている。		出来るだけ現状維持、または快方の方向で支援していくが悪化する場合も有り。ご家族にはきちんと説明して共に今後の対応について考えていく。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金＝入浴日 火・木・土・日＝足浴日 入浴日と時間帯については決まっているが、順番はその都度、要望や予定、体調にあわせて決める。		なるべく利用者の状況に合わせた順番で入って貰う。入浴拒否される方にはタイミングを見ながら入って貰っているが、強い拒否の場合は中止する事も有り、その場合は清拭や足浴に変更したり着替えだけでとどめるようにしている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の流れは利用者の意向に合わせて特に強制はしない。行事・家族との外出のある時は事前に説明をし、時間を合わせてもらう。		個々の生活リズムを大切にしていきたい。昼夜逆転と考えられる場合は日中の活動的に動いてもらい生活リズムを整える。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前のアセスメントから読み取り、個々の興味・得意な分野が活かせる環境整備をする。職員が主導権を握るのではなく、利用者の意志で行えるようにしていく。役割分担については概ね出来ているように思う。		生活歴を掘り下げ、回想療法や日常生活の共同作業・関心に活かせる様にしていきたい。ストレスをためない為の個々に合った気晴らしの支援をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布はなるべく本人の使い慣れた物を使用し、買い物など必要に応じて、出掛ける時から所持できる方や支払いのときのみ扱われる方など、個々に応じて支払いをしていただいている。現金は普段はホーム管理としている。出納帳へは職員に行っている。		利用者自ら買い物に出掛けたい、必要な物を購入したいと気軽に言え、行動に移せるような働きかけをしていきたい。
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑作業、草取り、玄関ポーチのベンチ・駐車場に設置しているテントへの誘導により外気浴・おやつタイムなど、見守り・声掛けに行えるが、散歩はまだ不十分である。		職員の買出しには1～2名同行していただき、その際に希望する物を買い物して頂ける様にしており、なるべく康平に出掛けていただいている。利用者からの要望で普段の生活の中で買い物が出来る支援をしていきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出レクに関しては無理のない距離で十分下調べを行い、疲れの残らないようにプランを立てる。プランは事前にホームリーダー・ホーム長(管理者)・施設長に相談・報告をした上で完成させる。		外出レク計画は初めから利用者と共に立てれるようにしていきたい。個別でも、利用者の思い出深い所へご家族の賛同・協力を頂きながら実現できたらうれしい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	でんわや手紙の制限はしていない。希望があれば、また衣類やオムツなどお願いしたい時、本人から伝えて頂く事もしている。ファックスの送受信での連絡もしている。		電話の希望があれば職員がかけ、利用者が直接お話し出来る様に取り次いでいる。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会・訪問・外出は利用者・ご家族の希望に合わせて行ってもらっている。特に制限等はない。ゆっくりして頂ける様に居室へご案内させて頂く事が多いが、リビングでもかまわない。		本人のなじみのある方に来て頂き楽しい時間を過ごして頂けるよう支援していく。利用者負担のかかる知人の訪問はご家族と連絡・相談して対処していく。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむをえない場合に関してはご家族に十分な説明・納得をしていただいた上で、同意書にサインをしていただき必要最低限の実施とする。身体拘束について、曖昧な部分も有り、しっかりとした認識を職員全員同が持てるように取り組んでいく。		事例を考えながら、「身体拘束をしないケア」の実践をしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>鍵かけ = 身体拘束にあたるという認識もあって、施錠以外の方法で問題解決出来る様に検討していく。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		<p>二重三重の安全確認は必要、特に夜間に於いては一人体制のため、突発事故の対処が難しい。夜間巡回時は緊急通報の為、ホーム用携帯電話を必ず所持する。利用者の状態に応じては離床センサー等も検討していく。(現在は不要)</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>定期的に居室の整理整頓を行い所持物の把握をする</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>ホーム内外の危険箇所のチェック、改善に取り組む。職員間で委員会を発足したので教育委員を中心に勉強会を行っていきたい。必要に応じては、外部研修にも参加し、知識を得る。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>緊急マニュアルの活かし方について、時々職員全体で確認・勉強していく必要がある。マニュアルは教育委員を中心に適宜修正していく。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>マニュアルの見直し、修正を進める。ホーム内の避難訓練を早期に実施する。また、その際、地域の方にも参加していただき、相互に協力できる関係を作っていきたい。(普通救命講習も受けたい)</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	管理者より入居時や紙の都度、生活していく上での起こりうるリスクを説明、機能低下などによる自己の想定、防止策を検討し、ご家族とも話し合いの場を設けて理解していただく。		モニタリング、サービス担当者会議で起こりうる事故防止策を検討、ケアプランにも組み込み 職員全体が周知する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	本人の訴え、職員の観察した事を介護記録や業務日誌に記載、情報を共有する。ご家族・主治医、かかりつけに連絡、指示に従った対応をしていく。申し送りを確実にして正確な処置が出来る様努めている。		体調の変化、異変時には注意深く観察・記録しているが、その前後の経過等も注意を払う必要がある。経過観察の重要性を知り、各職員が認識し実行していく必要がある。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	布子役管理は看護職資格のある管理者を主に行っている。各利用者の薬は日にち、服用時間ごとに仕分けして間違えずに服用していただく。職員一人一人、利用者個々の薬の内容を理解する必要がある。		内服薬は利用者が確実に服用されるまで確認を怠らないようにする。薬の目的、副作用、用法、用量について個人ファイルに入っているので職員各自で読んで理解していく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給・牛乳の飲用、テレビ体操・廊下等での歩行による運動の声掛けを行っている。緩下剤の服薬は必要最小限にとどめるようにしている。		昨年、アロマの検討をしていたが、専門的に学んだ職員が現在いないため中止している。環境的な諸問題があるが、出来るだけ毎日の日課として 散歩を取り入れていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けはするが、利用者に任せている部分が多い。義歯洗浄は夜間、定期的に洗浄剤を使用し、職員管理の下行っている。		食後の口腔ケアを定着していきたい。 個々の能力を把握して出来ない部分についての支援をしていきたい。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取記録・把握に努めている。夏場の外出時は特に脱水症にならない様に配慮する。		利用者と接する中から健康状態の把握に努める。疑問があればホームリーダーと相談、管理者の指示を仰ぐ。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	日常では手洗い・うがいの励行。禁忌以外の利用者・職員は毎年インフルエンザの予防接種を行う。感染症予防マニュアルや日頃気になった事などを調べた資料等から知識を得るように努めている。		感染予防に対して各職員が意識的に知識を得、対策を講じていけるようにしていく。 研修の機会があれば参加を促す。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器・布きん・台所用品は定期的にハイターで消毒をしている。 食材の賞味期限に気を付け、安全な食材の使用と管理に努めている。		マニュアルに添って衛生管理に努める。 定期的な消毒・在庫管理を行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路から入れるスロープに加え、今秋 駐車場から出入りできる様、門扉・スロープを設置、手すりもつけた。玄関正面の階段も段差を低くして両サイド手すりをつけて安心して出入りできる様にした。玄関は夜間以外は常に開錠している。		玄関先にベンチを2脚設置し利用者の外気浴等に利用。外の様子を見ることが出来たりプランターで育てている花を眺めたりして気分転換が出来る。 地域の方々が気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気を出していきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには花を活け季節を感じて頂ける様にしている。リビングには利用者と職員の共同制作した作品や行事などで写したスナップ写真を掲示している。 トイレは周期がこもらないように常に換気、消臭剤で対応している。		季節感を感じて頂ける様なレイアウト、スナップ写真等から思い出話が繰り広げられるような雰囲気を出していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食卓の席は特に決めておらず、その時々で職員を交えて自由に座ってもらうようにしているが、'いつもの席'はあるようである。		なじみの人、そうでない人もいるので利用者同士トラブルにならないように、配慮しながら会話を楽しんでもらえるようにしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		居室のレイアウトや模様替えを利用者を含めてよりその人らしさを出せるようにしていきたい。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		汚染バットや衣類、ゴミが室内に放置されていないように定期的に訪室して確認している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		より安全、快適に暮らして頂ける様に検討、工夫をしていく。
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		職員全体で情報を共有し、自立を促す方向で取り組めるようにケア会議やカンファレンスを行う。
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		駐車場につづいてテントや畑がある為安全に十分な配慮をして付き添い、見守りをする。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)